

# オオツチハンミョウ



写真1. オオツチハンミョウ(♀:池河内湿原:2006. 6. 3 :午前 11 時 30 分頃)

久しぶりに「オオツチハンミョウ」に出会うことが出来ました。体長2～3センチで、ご覧のように体の色は青藍色です。腹が太く、前翅は短く、後翅を欠き地上を歩き回るだけで飛ぶことはできません。

成虫は危険が迫ると脚の関節から黄色い体液を分泌します。この体液には、体内で生合成した有毒な「カンタリジン」が含まれ、敵からの護身に役立っています。したがって鳥達は不味い(まずい)虫であることを知っているので食べられることはありません。なお、この「カンタリジン」はわずか0.03グラムで人への致死量になるそうですよ。

「ツチハンミョウ」の仲間は変わった生活史を持っています。成虫の餌は植物の葉で、♀は土中に5000もの卵を産みます。卵から孵(ふ)化した1齢幼虫は草の茎をよじのぼって花の上で「ハナバチ」(ヒゲナガハナバチなど)の飛来を待ちます。訪花したハナバチの♀に運よくしがみつくとのできた幼虫は蜂の巣に運ばれ、蜂が産卵すると同時に蜂の卵と一緒に蜜の上に降ります。

幼虫は蜂の卵を食べた後、蜜と花粉をちゃっかり横取りして成長し、蛹を経て羽化するという仕組みです。

---